

平成21年9月14日

各位

上場会社名 株式会社 幸楽苑  
 代表者 代表取締役社長 新井田 傳  
 (コード番号 7554)  
 問合せ先責任者 常務取締役管理本部長 武田 典久  
 (TEL 024-943-3351)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	17,277	906	918	381	23.44
今回発表予想(B)	17,772	1,248	1,279	639	39.36
増減額(B-A)	495	342	360	258	
増減率(%)	2.8	37.7	39.2	67.7	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	17,138	947	917	379	23.37

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	34,417	1,801	1,814	599	36.87
今回発表予想(B)	34,912	2,143	2,174	823	50.64
増減額(B-A)	495	342	360	223	
増減率(%)	1.4	18.9	19.8	37.2	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	34,264	1,778	1,738	519	31.96

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	17,255	839	873	354	21.81
今回発表予想(B)	17,751	1,196	1,250	619	38.13
増減額(B-A)	495	356	376	264	
増減率(%)	2.8	42.4	43.1	74.6	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	17,114	869	859	335	20.61

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	34,376	1,714	1,750	540	33.23
今回発表予想(B)	34,871	2,071	2,127	782	48.15
増減額(B-A)	495	356	376	242	
増減率(%)	1.4	20.8	21.5	44.7	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	34,220	1,652	1,632	417	25.65

## 修正の理由

### (1)第2四半期累計期間

当社グループは、『既存店の活性化』を最重要課題とし、店舗従業員への調理資格制度(マイスター制度)導入による各種マイスターの育成やサービス体制見直しによる商品提供時間の短縮に取り組み、店舗QSCレベルの向上につなげるとともに、地域・店舗特性に応じた販売促進・メニュー導入等の諸施策を実施してまいりました。また、ES(従業員満足度)＝CS(顧客満足度)と考え、当期より店長以上の管理職に対する年収底上げを実施したことにより、従業員の大幅なモチベーションアップと店舗レベルの向上につながっております。

これらの諸施策により、厳しい経営環境を踏まえ、既存店売上高を前年対比2.2%のマイナスで計画しておりましたが、8月までの累計実績で前年対比0.2%のプラスとなり、計画を上回る状況で推移しております。新規出店は6店舗の計画に対して4店舗となる見込みですが、既存店が好調に推移していることから、売上高につきましては、前回発表予想を上回る見通しとなりました。

利益面につきましては、主要食材であるチャーハンの内製化等により前期比で0.8%の原価率改善を計画しておりましたが、これに加えて、小麦粉等の原材料仕入価格が想定以上に下落していることや、メニューの見直し等により、さらなる改善が見込まれる状況となりました。

また、店長教育の成果としてコストコントロールが徹底されていることやガス単価の下落等により、販管費率についても計画を下回る見通しです。

この結果、前回発表の第2四半期累計期間業績予想に対して、売上高、営業利益、経常利益及び四半期純利益ともに上回る見通しにあり、連結・個別とも上記の通り修正いたします。

### (2)通 期

当社グループが属する外食産業におきましては、景気停滞に伴う雇用や所得の先行き不安による生活防衛意識の高まりに加え、オーバーストアによる競合他社との競争も激化しており、今後とも厳しい経営環境が続き、売上高の下振れリスクが潜在するものと想定されます。当社グループはこうした状況を踏まえて、引き続き『既存店の活性化』を最重要課題とし、店舗QSCレベルの向上に努めるとともに、『収益性及び利益率の改善』に向けた諸施策を推進することで、第3四半期以降におきましても、当初計画を必達させることを当面の目標としてまいります。

第2四半期累計期間及び第3四半期以降の見通しから、前回発表の通期業績予想を上回る見通しにあり、連結・個別とも上記の通り修正いたします。

※業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、予想につきましては様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

以 上